

平戸瀬戸の航路改良について

九州港湾建設局 企画課

吉 村 芳 男

平戸瀬戸は九州西北部における小型船交通路の要衝に当り、ノ日平均300隻の船舶が通峽して輻輳を極めてゐるが、瀬戸中には大小様々の渚、暗礁があつて潮流が早く且複雑を極め古来交通上の難所として船舶の遭難が頻発してゐた。このため昭和24年夏瀬戸に導流堤を建設して潮流を整えたが、海難事故が後を絶たず、通峽船舶の増加と共に海難事故が再び増加して来たので、昭和31年6月に現地調査を行い船舶通峽量、航路及び海難状況を調査分析して海難を根本的に防止すべく航路の分離を計画した。又航路の分離に当つては計画航路中に存在する芳左エ門瀬の除却が必要であるが、表面装薬発破試験等によつて除却工法を検討した。